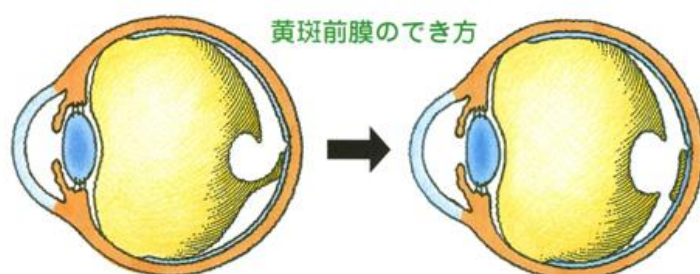


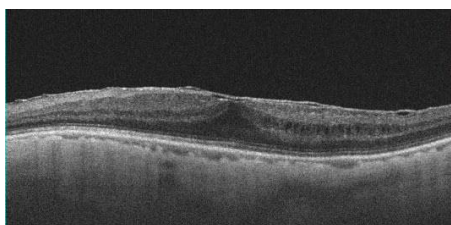
病気の説明： 網膜前膜（黄斑前膜）について

- 眼球の中の大半の空間には透明なコラーゲンのゼリー（硝子体）があり、元々若いころ（10～20歳代）には眼球の中をほぼ満たしています。その頃は硝子体と網膜は接着しています。
- しかし、年齢による変化に伴い、硝子体は徐々に縮んでいき、網膜の表面から外れていきます。その際、網膜の中心部分である黄斑の部分で硝子体と網膜の接着が比較的強い人の場合、硝子体の一部が網膜の表面に残ったまま硝子体が網膜から外れてしまうことがあります。
- 黄斑の部分で網膜に接着したまま残った硝子体は、その後徐々に収縮し、網膜の表面にしわを作ったり、黄斑の網膜を変形させてしまうことがあります。そうなるとものが歪んで見えるようになったり、視界の中心部分が見づらくなり、徐々に視力が低下していきます。



- この病気で失明することは、ほぼありませんが、網膜前膜による黄斑の変形が大きかったり、経過を見ていくうちに明らかに見え方が悪くなっていくようであれば、手術治療をお勧めする場合があります。手術によって視界の歪みが完全に治るわけではないですが、軽減するケースが多く見られます。手術によるメリットと、リスクを秤にかけてメリットが大きいと思われる場合には手術を受けるのが良いでしょう。なお、この病気に対し手術以外の治療法は今のところありません。

◇ 網膜前膜 術前 矯正視力(0.4)



◇ 網膜前膜 術後 矯正視力(0.8)

